(一) 麻生委員長「鳥」とかる。

一月三十一日午後一時二十分麻生委員長は立川出発の飛行機で大阪に向ひ、午後二時五十分大阪着、出発の際は河野、浅沼、田所、外三十名の党員が見送りまつた。麻生氏夫人久子、姪恭子、一子義孝が見送つた。飛行機がプロペラの音高く滑走を始めるや、義孝君、遂ハ走り、遂に及ばずして曰く「父さんがお鳥にかつて了つた！」と

(二) 丙をくルる先生と、甲を去へた生徒の應援

東京第二区河野密君の應援に、河野君が大長美中学在学中丙をくルてゐた先生と、河野君が同志社の教授たりし時に甲を去へた社会科学の生徒が應援に来て。

丙を河野君に呉れた老先生。河野君の成人振りと武い姿年とを見て、老いの目に涙をためよろこんで曰く

先生は習学の先生であつた。

(三) 爆弾候補

東京第六区の松谷君は、今や破竹の勢いで進んでゐるが、演説して曰く「私は爆弾であります。諸君は私を議会に投げつけて下さい。私は爆発して濁つた議会を浄化します。」

(四) 火の玉の助十

東京第五区の加藤君は、例の如く火の玉のやうな演説を續けて人気を沸騰させてゐる。聴衆歓呼して曰く「火の玉の助十」！

(五) 小俣の手先きと臨監

東京第四区の浅沼稲次郎の演説隊が、二月一日の本所本横小漫橋の演説会で「青物市場疑獄のハゲチャビン」と攻撃する。会場にチぐり込んでゐた小俣の手先、ワカ〳〵と臨監の「業」「中止させて了さい〳〵」と頼めども臨監應ずず